

M26 年帰国道中日記／報恩講巡回日記／東上日記

タイトル	M26 年帰国道中日記／報恩講巡回日記／東上日記
著者名	能海 寛
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第 28 号
ページ	74—75
発行年	2023.3.15
E-mail	Sekihou@haz away.com(能海寛研究会)

ISSN 1883-4183



中国僧姿の能海寛

能海 寛 略歴

能海寛 法名法流。 石峰と号す。明治元年 5 月 1 8 日島根県浜田市金城町長田（当時は東谷村）浄蓮寺に生まれる。1 2 歳で得度し、慶応義塾と哲学館に学ぶ。恩師南條文雄師の意思を継ぎチベット探検の論文『世界に於ける佛教徒』を発表すると共に語学の研究と山岳登山による体力の練磨をなす。郷里にあつては地方史を編纂して和歌を詠み、益田沖の高島にて寺小屋を開設する。哲学者、探検家、宗教家として釈迦直伝の大蔵経の経典を求め英訳経典世に出す目的で当時鎖国中であつたチベットへ求道のため身を挺し仏教巡礼探検を实践した功績は偉大で有言実行と用意周到さは後世に幾多の教訓を残す。その苦難の 3 4 年の生涯に「般若心経」西藏文直訳（梵・藏・漢・英）など四巻が著書として永遠に伝う。

明治26年夏帰国道中日記

能海寛

7月20日 朝駒込峯岸を出て森岡に至り写真2回1時間余。九時、過発車にて湯島に行。松見、菊池、村上、古河、西依など7、8名会し、松山来語。蔵行新法語あり。午後1時発鉄馬車にて新橋馬車にて品川行。平松に行。30分間話し、4時横濱着。公園□□町□□町海岸通り最壯快ナリ。5時発、7時鎌倉へ着。三橋寺庵宿。秦、近角等あり。種々相語あり。この夜、麦生へ第1回羽書を出す。国へも出立の羽書を此所より出す。夜雨あり。

○21日朝発雲頂院行。田中明林などら逢ひ講を聞く。佛日庵に行く。高見に逢ひ□やと談す。富士見亭、白鹿洞、北条□所、佛光国師墓、及□□所、鐘堂を回り、予の行て談し、門前にて3人会食せり。豪吟せり。分かれ建長寺半僧坊、えんま堂、白はた山、女岩、大仏、はせ観音等を見る。晩食し、夜、秦、三宅、松見、滝口等と談せり。晩、秦君と談話す。

○22日、7時5分発、4時40分岡崎着。5時、大野着。7時散歩。

○23日、随行4時迄。別院等を見上り、夜、談話す。□に止まる。

○24日、6時半発、7時20分着。8時21分岡崎初にて、9時50分頃名古屋着。談話。11時環着。大村など2時大野去り、三時小谷着。夜散歩す。

○25日、6時発、熱田明神を参拝。8時、港にて舟をかり汽船に至る3人と分かれ、9時、東海運輸丸に乗込む。四日市に12時頃着。2時津、4時神社、5時二見角や着。洗濯。談話、茶話会。予の行に付き談す。古河、桜井、橘、原、山田、小山、加藤、10時退散。

○26日、朝寺にて小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予3人、山田に行。外宮に参し古市内宮に参、2人と分かれ亀羽行。車にて8時二見着。

○27日、6時発はしけにて第三通運に乗込む。4時、熱田着。浪あり。車にて名古屋着。此夜、公園を小谷と散歩す。

○28日、昨日、船中より二見へ羽書を出す。朝、□□に行。終日□□に遊ぶ。囲碁。

○29日、出發せんとして延引滞在す。朝、小谷君二見へ立つ。此夜、宴席に行。12時帰床す。

30日、一番即5時発、勘七の車にて行き、5時40分に乗込み、7時、大垣着。車にて養老行。10時着。11時発、□行にて、四条、京極、三条、粟田口、知恩院、丸山公園、四条、新町を経てかえる。「本願寺の壯を見ずんば何れはこの知られ旧仏教の尊を」寺町光円寺。

報恩講巡回日記

能海寛

明治28年10月6日、晩御経。山県郡山廻村字高野。当村祭り。10月29日、大隅慶助、此先きの少しの坂は水の分れ場。一つは15里にして、廣島に出て、一つは安芸備後を経て70里を經過して、石州の海へ入る。其河原なり。大谷村の水は其原となり。

大谷の祭、新10月5日より6日までなり。才乙より2里半。波佐へ5里半。此高野よりあり大暮より廣島へ14里半。才乙へ1里半。大朝へ2里半。細見へ2里。

御本尊百大 良如

御形見名号 一幅

自家用神棚 仏壇五具足 家内5人

御文御加人 文如上人

病気の女布簿は大谷一等の大家(土蔵2けもあり)よりの嫁。其女に養子とり若夫婦に小共1人あり。人足もならしめ大谷に朝出立。

10月7日、大道に沿い半里にして(山を越え)大谷の上に出て山を下り、大谷郷に出つ。大家の後口を通り場所に入り向側、早吉方に投宅す。昨年春火難に此辺逢、大谷個数14、5戸。場所25、6戸あり。政府の直轄にして、官より月5円給取り、妻共、此所にて金穴を洗い直に鉦にて吹く。便利の地なり。鍛冶屋は無し。金穴5年ぶり位に洗う。たたら、よう吹かざるゆへなり。月に4、5回位吹くと云う。

此家4間に3間の家なり。家族7人(子共5人)

御本尊 百大 達如上人

御形見 名号 1幅

祖師聖人像絵 1幅

大谷里吉

御文章 五帖一部 小本 昭如上人
御和讃 一部 御本山御免
御文 五帖目 一冊 達如上人
仏壇 五具足 上等

御本尊 二百大 本如上人
但明治28年他より譲受
御本尊 真如上人
御形見 名号
家族 虎治

仏壇大にして極上等なり

此虎治の女、慶助に嫁なり后、離婚の慶助は一の谷より妻を貰い田地を分けて世口ひ作り、其女は或る御場弘の檀那の妻となり立身せり。

午後2時なり

御形見名号 三具足 栄治
家内3人
元は桂迫及旧栃下にありたりと
桧谷梅次

家族なし 只自分1人

此5軒は親類。伯父の時、皆一つなり。
大字高野小字大谷場所なり。

坊原京蔵

右は助五郎の次男なり。七男は力太。皆死に絶へに付、二男京蔵は市木、浄泉寺へあづけ、是は其助五郎妻、浄泉寺門徒より入るゆへ二ヶ寺を勤めおりしより、明年よりは当山報恩講をつとむ。

御文章 寂如上人 虎治
仏壇 4尺 山内一等 五具足
家内6人

明年よりは二夜二昼滞在にして当村及高野の祭祀を除き及び京蔵を勤めることなり。
当所金穴5年ぶりに一洗いにして、タタラ5年分充分なり。尔るにタタラも他の四国信も吹くなり。月に34回金穴を洗う為、川筋10里が間へ各村へ407石を掃う故に3,000円の資入なり。
これ一秋に祓うことなり。金穴人50人なり。今

で32年になるという。

御名号 口印 一幅
桧谷梅治 年齢80歳

8日朝御勤申し候
梅治母 桧谷チエ
27年5月26日死亡

御形見名号 一幅 波佐上市斎藤みつ
右10月24日 報 家内3人 品治

明治2、3、5、6、7年、過去帳少し
法事口口聞正しのすべし。

「東上日記」

能海寛

明治29年2月28日

28日午後9時半出発。麦生着。松原金崎、斎藤繁人君より上田氏東上費、金20円石指にて受け取る。

此夜、麦生新年宴会。3時臥床。明朝出発是所、麦生都合により延引。

29日、西須磨、鶴谷方古河勇清見喜市、本日荷物を持って加計へ出発50銭。清見へ渡す。宮崎に來り快談。清岡要助君より上田君の事を頼まれる。夜に至り、麦生政市君東上談有之依頼を受く。夜1時臥床。

3月1日、朝8時出発。口に寄り富郎、逸次郎より二君、飯室支隊たり。予、麦生政市君及二僕出発す。

上田は、昨日、午後出発せり。若安養妙道を訪う。清見、松原にて逢い若安養、松原昼食店にて面会、快語。午後1時之。午後4時頃、加計着。6里斗り歩行。今朝四十口政市君之為受取る。此夜、江島來り、尊君は政宗、私やさひがさなみいきてても、私やまれぬなど快語せられたり。

金5銭 松原 茶代

金2銭 加計 渡し船

郵船会社は新羅入口、日の丸1,482トン、北辰丸1,186トン、凱船丸1,810トン、千代田丸1,930トン。